

令和 8 年 8 月 31 日



浜小だより

9 月号

横浜市立浜小学校

校長 丹波 悟亮

《学校教育目標》相手の考えや気持ちを大切にし、互いに高め合う浜の子

子守り

校長 丹波 悟亮

「子守りって、子どもを守るという意味で、昔は人が子守りをしていたけど、今はテレビが子守りをする時代だね。」

テレビ好きだった私は、子どもの頃に、親に言われました。

テレビを見すぎないようにするための言葉でもあり、戦後に幼少期を迎え、貧困から立ち上がってきた世代の両親にとって、急激に変化していく社会を受け入れつつ、戸惑いでもあったように感じます。

時代の変化と共に、子どもの子守りをするものも変わってきました。子守り役は、テレビからゲーム機や携帯電話へと変わってきました。どんどん社会は、便利になって確実に進歩しています。今の時代を否定するわけでも、昔が良かったと思い出に浸る気もないのですが、私自身も、この変化に戸惑いを感じます。

携帯電話を通じて、子どもたちが、いろいろな問題や事件に巻き込まれる危険性が叫ばれている昨今。本当に「子守り」になっているのだろうか。

また、子ども一人にタブレット端末があり、授業の在り方も大きく変わっている教育現場で、更に AI の活用など、止まることなく、どんどん進んでいきます。この変化は、確実に生活を便利にし、快適にしてくれます。しかし、一方で、時間に追われ、心に余裕がなくなっているように感じることや不便だと感じたことが便利になったことも多いのに、気持ち楽にならないように感じることもあります。

なぜだろう。何か忘れ物をしてきたのだろうか。

便利を手に入れたときに、何を手放してきたのか。手放したことで、どんなことが起きているのか。そして、これからの時代に、守っていかなくてはいけないことは何か。浜小学校の子どもと保護者と、地域と教職員とで、考えていきたいです。